

第5回 2020年代の総合物流施策大綱に関する検討会

議事概要

1 日時

令和2年11月6日（金）10:00～12:00

2 場所

赤坂インターシティコンファレンス The Air

3 出席委員

根本敏則委員（座長）、矢野裕児委員（座長代理）、池田和幸委員、井本隆之委員、上村多恵子委員、小川博委員、小野塚征志委員、金子千久委員、川中子勝浩委員、苦瀬博仁委員、黒木定藏委員、小谷光司委員、坂元誠委員、佐藤清輝委員、佐藤修司委員、宿谷肇委員、高松伸幸委員、田中謙司委員、西成活裕委員、野澤知広委員、箱守和之委員、兵藤哲朗委員、藤野直明委員、堀尾仁委員、牧浦真司委員、馬渡雅敏委員、山下太委員

4 議事概要

【委員からの主な意見】

（提言①について）

- 標準化に当たっては、定常業務と非定常業務の識別が重要。DXを進めるためには、標準化のみならず業務の定常業務化も必要。
- 標準化をどのような体制で推進していくのかを明確にすべき。
- 資料上の物流DXの定義はデジタル技術を使うことにフォーカスが当たっているため、DXではなくデジタルリゼーションになっている。ビジネスモデルの変革を伴うことがDXである。また、物流事業者が特定の荷主のみに寄り添うのではなくプラットフォームとなり、物流をインフラ化する、という産業構造の変革の方向性を示せるとよい。
- i-Logisticsの議論がいきなりロボティクスに飛びすぎている。エッセンシャルワーカーに目が向いていない。
- 標準化、共通化の先にDXが開くが、標準化や共通化に関する記述が少ない。また、標準化、共通化といったときに、何を対象にするかを明確にすべき（コードなのか、フォーマットなのか等）。
- 物流MaaSの推進については、トラックデータとの連携だけでなく、港湾関連データ連携基盤等の他の基盤にもつないでいくという記述を入れてほしい。
- DXについて、例えば「物流分野で世界のトップランナーを目指す」など、物流DXや構造改革を経てどこを目指すのかについて言及があると、事業者も取り組みやすい。
- 日本の物流のデジタル化が遅れている原因の1つとして、物流従事者のレベルが高いという点がある。この点を踏まえ、ただ現状を否定するだけではなく、日本の物流従事者のスキルは高いので、短期間でもDXを進めることができるという書きぶりにしてみるのはいかがでしょうか。
- 標準化を進めるためには、企業間のプロトコルを共通化した上で、荷主等の理解を高め、投資の不確実性を下げることが必要。

(提言②について)

- 女性・高齢者の「活用」という書きぶりは改めた方が良い。
- トラックドライバーのみならず海運業界でも船員が不足していることに触れるべき。
- 提言の骨子案を見ると、社会にやさしい物流という観点がない印象を受ける。具体的には、過疎地域におけるラストワンマイル輸送の部分で少子高齢化や買い物弱者に触れてもよいのではないか。
- 地域社会のサステナビリティにも触れてほしい。人口が減少する中、今後地域社会のサプライチェーンの維持が重要になってくる。
- 物流に関する広報の強化はぜひ進めていってほしい。現状学生に対するアンケートにおいても、物流の社会的価値は理解されている一方、男の世界、残業が多いというイメージが払拭されていない。
- 燃費規制の表示ラベルのように、ある一定以上の基準を満たした事業者は褒めるなど、規制のみならずアメとムチを活用したインセンティブ設計が重要である。フェアトレードマークのように、最終消費者に対しても物流を見える化するのも一つの手段である。

(提言③について)

- 「しなやかな」物流とは弾力性がある物流を表現していると理解しているが、何を指しているか解説が必要。
- 全体的に輸出入に関する記述が少なく、出入口である港湾や空港を通過する物流に関する記述が少ない。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で国際的サプライチェーンが不安定になる中、国際基幹航路の重要性についても触れるべき。
- 新型コロナウイルス感染症や災害等有事の際に、関係者が連携する体制を平時から整えておくべき。
- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、航空においてベリー貨物が使えなくなったことを受けた今後の展開や、中国において武漢への物資輸送で鉄道が役に立った点など、航空輸送や鉄道輸送の価値が見直されている点についても触れたらよいのではないか。
- 地球環境の持続可能性の確保についての記述では、トラック車両の省エネ化・低炭素化についても触れてほしい。
- 提言③において、ハード面の記載があるが、エッセンシャルワーカーである人に関する記述が欠けている。

(その他)

- 足元の課題への対応とDXとを同じくらいの割合で書いてほしい。検討会などで出てきた危機感が少ない。物議を醸すくらいの大綱にできないか。
- 物流大綱の実現、推進体制をどのように作っていくかが非常に重要。
- 提言の主語が明確になっていない部分が多い。

【今後の進め方等】

- 次回検討会は12月4日(金)に開催予定。

以上

(文責 事務局)